



Communication



2019年度 プロジェクト科目紹介



関東学院大学 人間共生学部
 共生デザイン学科
 コミュニケーション学科

人間共生学部では、3年生の前半に学生全員が「プロジェクト科目」と呼ばれる活動を行います。

これは、学生たちが大学内にとどまらず、実際に外に出て、社会の中での様々な課題を見付け出し、その解決法を考えていくという学習のかたちです。画期的な試みとして、3年生の春学期は、他の科目を履修することなく、このプロジェクトだけに集中して取り組めるようなカリキュラムになっています。長期滞在などを伴うプロジェクトなども、これによって可能になります。

このプロジェクトで得た経験を、3年秋からの本格的なゼミナール、さらには卒業研究、そしてその先の就職活動に活かしていくこととなります。

人間共生学部では、16のコミュニケーション・プロジェクトと、16のデザイン・プロジェクトの計32のプロジェクト科目が運営されています。これら32のプロジェクト科目の中から1科目以上を選んで取り組んでいきます。

科目名	担当者	テーマ	ページ
デザイン・プロジェクト1	神野 由紀	高梨農園における食文化のデザイン・プロジェクト	1
デザイン・プロジェクト12	二宮 咲子	自然と共に生きる暮らしのデザイン・プロジェクト	2
デザイン・プロジェクト2	讃井 純一郎	三菱電機デザイン研究所との連携による 商品デザインプロデュース実習 ～冷蔵庫を対象としたインタビュー調査～	3
デザイン・プロジェクト8	佐々 牧雄	三菱電機デザイン研究所との連携による 商品デザインプロデュース実習 ～冷蔵庫を対象としたエスノグラフィ調査～	4
デザイン・プロジェクト3	立山 徳子	カンボジア伝統絹緞再生プロジェクト訪問	5
デザイン・プロジェクト4	水沼 淑子	地域遺産の保全活用プロジェクト	6
デザイン・プロジェクト5	山崎 稔恵	ファッションショーで魅せる横浜スカーフ	7
デザイン・プロジェクト7	藤本 憲太郎	イベント会場の構成と装飾	8
デザイン・プロジェクト6	佐野 慶一郎	環境学に基づく海外交流の実習	9
デザイン・プロジェクト10	海老根 秀之	プロモーションビデオ制作	10
デザイン・プロジェクト9	兼子 朋也	空き家再生プロジェクトの実践（横須賀・三浦地域）	11
デザイン・プロジェクト11	日高 仁	空き家再生プロジェクトの実践（横須賀・三浦地域）	12
デザイン・プロジェクト13	淡野 哲	ストップモーション・アニメ制作 コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ	13
デザイン・プロジェクト14	小林 和彦	作品展示の企画と実践	14
デザイン・プロジェクト15	兼子 朋也	三浦に遊びの学校をつくる！	15
デザイン・プロジェクト16	日高 仁	三浦に遊びの学校をつくる！	16
コミュニケーション・プロジェクト1	新井 信一	中長期のインターンシップ	17
コミュニケーション・プロジェクト2 & 3	松下 倫子	「学生が受けたい授業の企画」と「開講」	18
コミュニケーション・プロジェクト4	楠 勝範	「日本は多様化している～Japan is Changing～」(横浜市金沢公会堂ホール) 自動通訳機プレゼンテーション、映像作品制作、リーディング&一人芝居、イベント進行・運営	19
コミュニケーション・プロジェクト5 & 6	黒崎 真由美	英語圏の大学での語学研修プログラム (A) (B)	20
コミュニケーション・プロジェクト8	施 桂栄	中国文化についての調査・体験（江蘇省・江南地域）	21
コミュニケーション・プロジェクト16	山田 留里子	中国・常州大学での中国語研修	22
コミュニケーション・プロジェクト7	山田 留里子	中国・北京大学での中国語研修	23
コミュニケーション・プロジェクト9	奥田 博子	インターンシップ（横浜・川崎地域）	24
コミュニケーション・プロジェクト10	石井 充	Webデザイン・CGデザイン実習	25
コミュニケーション・プロジェクト11	Jason Moser	Learning to Master Popular Visual Technology	26
コミュニケーション・プロジェクト12	折田 明子	インターネットを活用した情報発信・広報の計画立案・実践	27
コミュニケーション・プロジェクト13	佐野 予理子	働く人の意識や行動についての調査プロジェクト	28
コミュニケーション・プロジェクト14	道幸 俊也	問題発見と課題解決の実践	29
コミュニケーション・プロジェクト15	川村 寛文	アイデンティティと文化の政治に関するフィールドワーク (in 沖縄)	30



「高梨農園における食文化のデザイン・プロジェクト」

プロジェクト概要

現代の食の問題について、食文化に関わる知識を得た上で、現場の課題を発見してデザインによる解決策を提案するプロジェクトです。
マグロや野菜などを扱う産直センター「うらり」の一角で、高梨農園ブランドをアピールできるようなフード販売コーナーの提案が今年度の課題です。

1 事前調査&現地調査



高梨農園にてインタビュー



くらわんか

高梨農園は三浦市を中心に野菜の生産や加工品の製造、販売を行っています。「うらり」にある直売所では野菜や加工品の販売のほかに「くらわんか」という甘味処があり、大判焼きやアイス、シェイクを販売しています。畑や加工品販売店にも訪れ、農園のブランドの理解を深めました。

2 販売実習&仮設飲食スペースの事例

「うらり」でどのような飲食スペースの展開が可能か、インターネットで仮設飲食スペースの事例を参考に考えを広げました。創造祭では高梨農園の野菜や加工品の販売を通し、隣のパン屋のイートインやパッケージを観察することで「うらり」の飲食スペースの提案に活かしました。



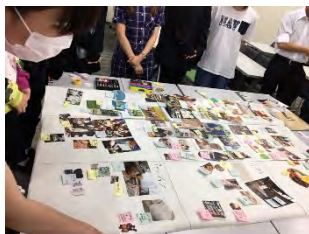
仮設飲食スペース事例



創造祭での販売

3 演習

くらわんかで販売するフードとパッケージのデザイン、飲食スペースの提案が演習の課題でした。高梨農園のブランドイメージやターゲットも視野に入れ、提供方法の提案を行いました。



高梨農園のブランドイメージの検討



モック(模型)作り



1班
「手軽に丸ごと楽しむ三浦！」

2班
「くらわんかを三浦の入口に」

3班
「うらり高梨を憩いの場に」

担当教員：神野 由紀 (じんの ゆき)



「自然と共に生きる暮らしのデザイン・プロジェクト」

プロジェクト概要

関東学院大学キャンパスが位置する神奈川県内の森・里・川・海と都市の自然環境問題について、法政策・社会文化・ライフスタイルの視点で調査。現場での実習を通じて、自然共生の専門的な知識と技術を習得。今年度は農園をフィールドに自然と共に生きる豊かな暮らしを実現するモノやコトのデザインを3～4人のチームで企画プロデュースします。

STEP1 文献・現地調査

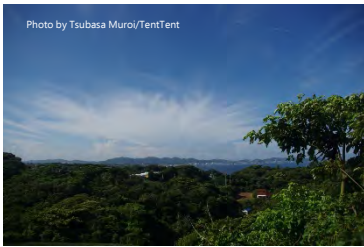


Photo by Tsubasa Muroi/TentTent

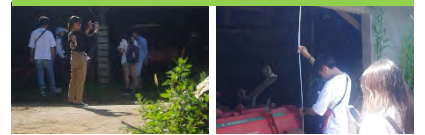
高梨農園の栢山農場の現状と特徴



- ・栢山農場の畑ではキャベツの栽培を行っている。(2018年5月19日時点)
- ・畑の横には倉庫が設置されている。
- ・倉庫内の農機具は定位置が決まっていない。
- ・晴れている日は栢山農場に日陰はなく倉庫の屋根の下が日陰になる程度
- ・道路から少し離れて山の斜面側に面しており周りは山林のため樹木等に囲まれ自然豊か。



Photo by Tsubasa Muroi/TentTent



神奈川県内の気候風土や農業と農園・農業経営の現状と課題を文献資料調査&現地調査

STEP2 現場で実習



専用区画で
20種の野菜を
無農薬で
育てています



播種や草取り・摘芯から収穫・交流イベントまで新しい農業の形【体験型農園】で実習

STEP3 制作・企画プロポーザル



農園+カフェ



+ ロゴマーク

+ 収穫体験



「自然と共に生きる暮らし」を実現する【農園+〇〇】を制作・プレゼンテーション

担当教員: 二宮 咲子(にのみや さきこ)



「三菱電機デザイン研究所との連携による商品デザインプロデュース実習」

～冷蔵庫を対象としたインタビュー調査～

プロジェクト概要

現代社会では、商品デザインは付加価値の域を超え重要な「価値」となっています。「ユーザーにとっての価値はなんであるか？」を事前に調査し、デザイン情報を得てからデザインや企画の段階に移ることは、重要になっています。

プロジェクト2ならびに8では、三菱電機デザイン研究所との連携のもと、デザイン情報を得た上で商品デザインプロデュースを行いました。今年度のお題は「冷蔵庫」です。その内プロジェクト2では、評価グリッド法と呼ばれる手法を用いて実際にインタビュー調査を行いました。学生にとっては、本格的なインタビュー調査は初めての体験で苦労も多かったようですが、人々の生の声を引き出すことの面白さも感じてもらうことができたようです。

インタビュー調査の概要

各学生が2名を対象にインタビューを実施し、全体で27名の回答を得ました。主な調査内容は以下の通り。

1. 冷蔵庫の利用実態
2. 今の冷蔵庫に対する不満点、気に入っている点
3. こんな冷蔵庫が欲しい（夢の冷蔵庫）
4. こんなキッチン家電が欲しい（夢のキッチン家電）

最終成果物：商品企画提案の一例①

インタビュー調査の結果、またプロジェクト8で得られた観察調査の結果を踏まえ、学生一人ひとりが商品企画案を提案しました。その一例を紹介します。

「冷蔵庫の機能、全部使われてないんじゃない？」

調査の結果、企業側がせっかく提供した冷蔵庫のさまざまな機能が、ユーザー側には伝わっておらず無駄になっていることがわかったので、その対策を考えた。

提案1：機能・説明をもっとわかりやすくする。

- ・機能名称をもっとわかりやすくする。
例：氷点下ストッカールーム⇒肉魚の凍らない部屋
- ・機能や使い方を、庫内に、剥せるシールで貼る。
- ・マニュアル、説明書をもっと見やすくする。

提案2：本質機能に特化したウルトラシンプル冷蔵庫

- ・シンプルで、しかしサイズは大きな冷蔵庫を作る
- ・無駄な機能を無くすことで、コストも良くなる。
- ・説明書もわかりやすくなる。

担当教員： 讚井 純一郎(さぬい じゅんいちろう)

インタビュー調査で明らかになったニーズの構造(要約)

収納量について	たっぷり収納できる	
	収納効率が良い	棚の高さ等を細かく調整できる 無駄なスペースが無い
使いやすさについて	内容物が見やすい	上段奥が見にくい 庫内が明るい
	野菜室が真ん中にある	
冷蔵機能について	野菜室などの引き出しがひっかからない	
	腐らせずに保存できる	
	刺身を保存できる	
	鮮度を表示してくれるとうれしい	
機能の理解について	賞味期限を管理してくれるとうれしい	
	どんな機能が付いているのかわからない	
	付いている機能がどんな役に立つのかわからない	
	チルドルームの使い方がわからない	
扉について	手を使わずに開け閉めできる(タッチスイッチ)	
	開け放しにならない 開け放し警告音が聞こえる(うるさい)	
見た目の良さについて	壁と調和した色	
	引越しても大丈夫	無難な色 両開き
	シンプル	
	かわいい(レトロ) 圧迫感が無い ピンナップしやすい	扉に余計なものがついていない
衛生管理について	自動製氷は衛生上不安	
	掃除が難しい(しにくい)	
	中身がこぼれない(ドアポケットに入れた物がグラグラしない) トレイを外して洗いたい	
音について	運転音がうるさい ドア開放警告音がうるさい	
匂いについて	臭いがする(しない) 脱臭機能が付いている	
省エネに関するニーズ	電気代が安く済む	
その他のニーズ	冷蔵庫の上を、調理台、家電置台として利用したい	
	価格が安い 自動製氷機能について	

(回答者:主婦19名、単身者7名、シェアハウス居住者1名 合計27名)

三菱電機デザイナーからのコメント①



ただの思いつきではなく、デザイン情報を収集した後のアイデアで、しかも大胆なアイデアが多かった。「超シンプルな大型冷蔵庫」など、改めて気づかされたことも多い。

プロジェクトを終えての学生の感想①



プロジェクトの3ヶ月間は、大変厳しいものがありましたが、大学生活の中で一番濃い時期になったと思います。インタビュー調査やエスノグラフィ調査など、普段体験できないことを学ぶことができました。



「三菱電機デザイン研究所との連携による商品デザインプロデュース実習」 ～冷蔵庫を対象としたエスノグラフィ調査～

プロジェクト概要

現代社会では、商品デザインは付加価値の域を超え重要な「価値」となっています。「ユーザーにとっての価値はなんであるか？」を事前に調査し、デザイン情報を得てからデザインや企画の段階に移ることは、重要になっています。

プロジェクト2ならびに8は、三菱電機デザイン研究所と連携のもと、デザイン情報を得た上で商品デザインプロデュースを実践しました。今年度のお題は「冷蔵庫」です。プロジェクト8では、エスノグラフィ（観察調査）による訪問調査を実施した上で商品企画提案をしました。

エスノグラフィ（観察調査）とは

社会学や文化人類学で行われていた調査法で、観察を中心としたフィールドワークにより様々な気づきを得られることが特徴です。ここでは対象を一般家庭の冷蔵庫に設定。デジタルカメラなどを持参して一般家庭（20～50歳代のご家庭5軒）を訪問し、冷蔵庫がどのように使われているかを観察させていただきました。



エスノグラフィ調査の実施状況



冷蔵庫の左側面には、紙がビッシリと貼られている

最終成果物：商品企画提案の一例②

エスノグラフィ調査の結果、またプロジェクト2で得られたインタビュー調査結果を踏まえ、学生一人ひとりが商品企画提案をしています。以下はその一例です。

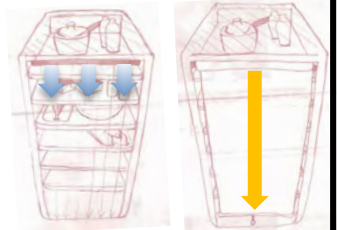
提案の背景：

訪問した家庭では、冷蔵庫の設置されている場所が狭いことが気になりました。冷蔵庫のドアを開けると人が立つのもやっとなです。また、保管されている食品が外からは見えないので腐せたり、既に購入している食品をまた購入することが起きていました。



提案コンセプト：そもそも冷蔵庫にドアっている？ 食品直取りできちゃう冷蔵庫

スーパーの食品売り場と同じような冷蔵庫。食品を見て直取りすることができる**ドアのない冷蔵庫**。ドアの代わりに上からの送風によって断熱する。夜や外出する際はロール式のカーテンを下げて省エネに・・・。



三菱電機デザイナーからのコメント②

成熟商品において、アイデアを展開するのは大変だったと思う。「まだまだ冷蔵庫の企画は、やりようがありますよ」という学生からの強いメッセージを感じた。プロジェクトは期待以上の結果である。



プロジェクトを終えての学生の感想②

実際にユーザー宅を訪問して、エスノグラフィ調査やインタビュー調査を行いました。最初は緊張しましたが、どのご家庭も私たちに協力的で優しく接して頂き、おかげで様々な発見をすることができました。

担当教員：佐々 牧雄（ささ まきお）



「カンボジア伝統絹緋再生プロジェクト訪問」

プロジェクト概要

20年もの間つづいた内戦の歴史の中で、人の命も自然も失ってきたカンボジア。

そのカンボジアに古くから伝わる草木染めによる絹緋の織物を復活させたIKTT (Institute for Khmer Traditional Textiles), 通称: 「伝統の森」の壮大なプロジェクトを体験・学習しました。

失われた人の営み、村の姿、平和な暮らし、戦火により焼き払われ、地雷が埋められた大地を開墾し、草木や森を再生し、カンボジア全土から染めや織りの技をもつ人々を募って再生したこの村。今では世界のトップブランド・デザイナーが注目するほどの質の高い布が織られています。

私たちはこの滞在を通じて、自然環境と社会環境の両輪がそろって初めて生まれる持続可能な生き方を考え直しています。



村の女性たちは子どものそばで仕事します



内戦を乗り越え、復活した伝統の絹織物



草木や昆虫の巣から染め出した絹糸



絹のハンカチに染色体験した作品と

担当教員: 立山 徳子(たてやま のりこ)



「地域遺産の保全活用プロジェクト」

プロジェクト概要

大学のある横浜市金沢区は歴史にも自然にも恵まれ、地域遺産について考えるには格好の題材である。そこで、プロジェクト科目として金沢区の地域遺産の魅力発信を取り上げた。

今回は、明治時代の和風建築である旧伊藤博文金沢別邸で、留学生を対象にした浴衣着付け体験を企画した。

浴衣や関連するものの準備、着付けして下さる方の手配、留学生への周知、文化財であり、横浜市緑の協会が管理する会場との交渉や効果的なしつらえなどなど、多くの課題に学生自ら取り組み、当日を迎えることができた。一般向けに行なった団扇づくりワークショップも大好評のうちに終わった。

広報や、外部の方々との連携方法など、課題も多く見つけることができ、反省点も多々あるが、それこそが当該科目の意義であろう。



紙風船による会場装飾



団扇作りワークショップ



旧伊藤博文金沢別邸(上)と当日の様子(下)



着付け体験

担当教員:水沼 淑子(みずぬま よしこ)



「ファッションショーで魅せる横浜スカーフ」

プロジェクト概要

シルク博物館が毎年12月に開催するシルク振興のためのイベント（シルキー・ウィンター・フェスティバル）に参加します。

横浜スカーフを用いたファッションショーの企画から制作・演出、出演までをおこなうことによって、横浜が世界に誇る捺染技術に関する理解を深め、シルク文化の継承と発展について考えることを目的とします。

●事前準備

シルクや捺染技術に関する基礎知識とイベント実施までのプロセスと方法を学びます

シルク博物館を見学

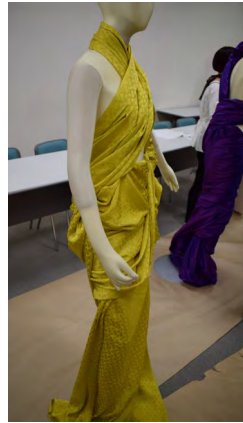
学芸員より、養蚕から生糸誕生までのプロセスについて説明を受ける学生たち



ファッションショーで使用する横浜スカーフ選び

●ファッションショー本番

(2018年度のシーンから)
衣装デザイン、ショーの演出や構成、選曲、ランウェイの歩き方など学生らの創意工夫がみどころです



シルク博物館にてピンワーク実習

約6mのシルク生地をピンでマネキンに留め衣装を制作



「たたむ」「つなぐ」「はさむ」「まく」「たらす」など、ごく基本的な手法でつくられた衣装の数々

終了後はまた一枚のスカーフに戻ります

●会場となる当博物館ホールの空間構成と装飾をデザイン・プロジェクト7が担当し、準備・実施において相互に協力します

担当教員：山崎 稔恵(やまざき としえ)



「イベント会場の構成と装飾」

プロジェクト概要

自分が考えたことが実際に形となって、
目の前に現れたらドキドキする。

誰かのために、と考えてつくったお菓子や
プレゼントが出来たら、心がときめく。
喜んでくれたら、なお嬉しくなる。

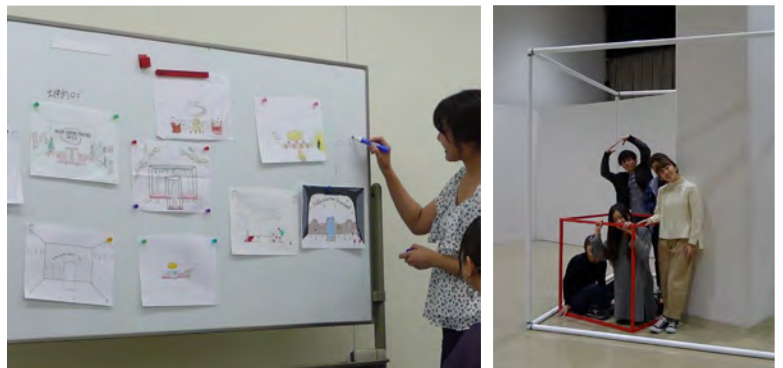
このプロジェクトは、いろいろな人と協力
してつくり上げる楽しさと喜びを体感して
ほしいと思って企画したものです。

何をやるかと言うと、横浜シルク博物館が
毎年開催する『シルキー・ウィンター・
フェスティバル』のための会場構成。

そして特に、いくつかのイベントが続けて
実施される日にプロジェクト5がおこなう
「ファッションショー」の会場をデザイン
し、自分たち自身で設営します。

デザインする時は、ワクワクする。

それが実現したら、もっと素敵だ。



担当教員: 藤本 憲太郎(ふじもと けんたろう)



「環境学に基づく海外交流の実習」

プロジェクト概要

大学卒業後、社会人として活躍する中で、海外との交流は、重要です。本プロジェクトでは海外交流の基本について、習得しました。外国人（カナダ、中国、韓国）の講師を招聘して、海外の文化やマナーを学び、且つ英語によるコミュニケーション手法を習得しました。最終の体験学習として、各自、英語による研究課題（環境学）の報告会（プレゼンテーション）を学内、および、ドイツのTITK研究所で行い、意見交換を行いました。

なお、ドイツの研究所にて、学生達は最先端のリサイクル施設を見学することができました。学生達は、研究者の解説に熱心に耳を傾け、質疑応答が活発になされ、英語力とコミュニケーション能力の成長が認められました。



叢 暁波(そうぎょうは)先生による中国文化の講義



クリストファー 先生によるカナダ文化の講義



ドイツTITK研究所でのプレゼンテーション



リサイクル施設の見学



ミュンヘンでの散策

担当教員: 佐野 慶一郎(さの けいいちろう)



「プロモーションビデオ制作」

プロジェクト概要

数名でチームを組み、チームでプロモーションビデオを制作します。何をプロモーション対象とするかはチームで相談して決定します（商品、商店街、企業、イベント等）。

対象を決定したチームは、その対象について徹底的に調べて、プロモーションビデオの構成を検討します。必要であれば、対象の関係者と事前の打ち合わせも行います。構成がまとまったチームから、実際にプロモーションビデオの制作を行っていきます。制作したプロモーションビデオは、その対象の関係者に視聴して頂き、ご意見を頂きます。

プロモーションビデオの制作を通じて、社会との接し方や、映像による表現スキルの向上をめざすのはもちろんですが、制作したプロモーションビデオが、実際に活用されれば、大きな社会貢献となります。得られる達成感も大きなものとなるので、積極的な姿勢で取り組みましょう。



撮影の様子



ソフトクリームを食べるシーン



ファミリー目線の横浜のプロモーションビデオを制作



横浜の夜景



デート目線の横浜のプロモーションビデオを制作



編集作業の様子

担当教員: 海老根 秀之(えびね ひでゆき)



デザイン・プロジェクト 9

「空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)」

*デザイン・プロジェクト 11と同時履修としています。

県産木材でウッドデッキと家具を制作



ウッドデッキ制作 (守谷ノ間)



家具制作 (温泉谷戸芸術家村)

森林研修 神奈川県丹沢エリアの森林と製材所を見学し、木が生育する現場から木材となるまでの一連の過程を合宿しながら学びました。

ウッドデッキ制作 空き家再生物件「守谷ノ間」(横須賀市鷹取)に広々とした気持ちのよいウッドデッキが誕生しました。木材は神奈川県産の檜です。

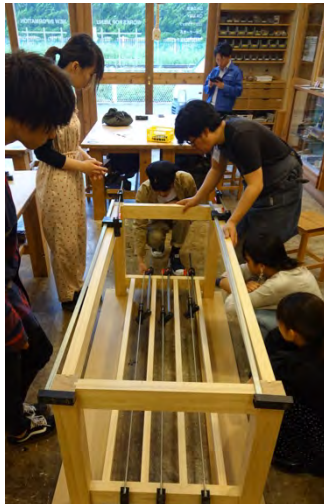
家具制作 空き家となった市営住宅(横須賀市温泉谷戸)が芸術家村として再生されています。その工房の作業台(4台)を県産の檜で制作しました。天板の接ぎ合わせ、組み立て、仕上げなど家具づくりの様々な工程を学びながら、自分たちの手で見事に完成させました。



森林研修



森林研修



製材所見学

担当教員: 兼子 朋也(かねこ ともや)/日高 仁(ひだか じん)



「空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)」

*デザイン・プロジェクト 9と同時履修としています。

空き家再生物件にオリジナルの家具を製作する

空き家を再生して生まれた「おっパまのみ」(KGU空き家プロジェクトの活動拠点)に、学生自ら考えたオリジナルの家具や建具をDIYで製作しました。3つのチームがそれぞれ工夫して、玄関、キッチン、洗面所をより機能的で、使いやすく改善しました。格好良くデザインできてますよね!

洗面台下に扉を作ってすっきりしたデザインに



before
配管や点検口が丸見えの状態



作業中

置き場所の無い大きな掃除機の収納場所に困っていたため、洗面台下に扉をつけて収納できるようした。増築した部分の壁(右側)は綺麗に垂直だが、元々の壁(左側)は少し傾斜が出来ており、その角度に合わせて枠を鉋で削り、扉は両方とも垂直になるようにし、洗面台下びつりのサイズの扉を作ることに力を入れ、極力隙間もないようにした。



収納後



after
完成

ぼくらの真鍮シューズラック



before



after

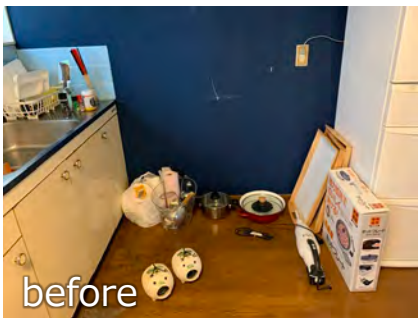


靴が脱ぎ捨てたままちらばっており、見栄えが悪かったので、シューズ・ラックを製作しました。

デザインは真鍮パイプをヒノキの木の板で挟み、モダンな雰囲気とともに洋風な風を追浜の間に吹かせました。♪(匠風)

シューズラックの隣には傘置きを置くことで、デッドスペースが無くなり、無駄なくスペースを有効活用することができました。

キッチンの棚兼作業台を作りさらに使いやすく



before

床やシンク周りに物が散らばっていて、清潔感もなく、見栄えが悪かった。また、機能性もない。



after

作業台をつくり、調理スペースを確保。下に収納できる箱を設け、散らばっていた物たちを整理することに成功。



工夫した点
箱をたくさん作りアンバランスにしてバラバラ感を出した。



大変だった点
糊付けをした後ビスで止めるとき、板と板がずれないように押さえておくのが大変でした。

担当教員:日高 仁(ひだか じん)/兼子 朋也(かねこ ともや)



担当の淡野です



デザイン・プロジェクト 13

「ストップモーション・アニメ制作」

コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ

プロジェクト概要

クレイ造形を主体としたコマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶプロジェクト実習。特別講師として映画「ノーマン・ザ・スノーマン」シリーズで知られるトップアニメーション・クリエイター八代健志監督に依頼。また八代監督率いる映像CMプロダクション太陽企画「TECARAT（テカラ）」で合同・集中演習授業を行った。現地では3日間の集中実習として、各自「鳥」を制作し、その鳥を使用して実際の機材によりアニメーション制作を行った。その他、八代監督の作品上映、CMや映像制作に関してのレクチャー、また映像業界へのリクルートについてご講演いただいた。



八代監督の代表作



スタジオ



ストップモーションの
細かな動きを出す為の関節



制作する道具がズラリ！



スタジオでの実技



完成した学生たちの作品



作品を固定します



撮影状況を確認！



全員での撮影に臨みます



最後に皆で記念撮影！

担当教員：淡野 哲(あわの てつ)



「作品展示の企画と実践」

プロジェクト概要

「自分達で作った作品を、自分達で考えた展覧会に、自分達の手で展示する」というコンセプトです。展覧会のタイトルや会期、設営スケジュール、広報戦略、会場構成や会場に掲示する挨拶文、備品と予算など、展覧会を構成する要素について、学生達が話し合いながら作業を進めていきます。

プロジェクトに参加した学生が制作してきた作品は、「イラスト」「写真」「立体物」という、ジャンルも展示形態も異なるものでした。これらの作品を一つの会場で共生させるため、会場を下見したり、お互いの作品を見せ合って説明したりしながら、会場構成を考えました。

イラストを入れる額の大きさや材質など、作品を魅力的に展示するための備品も、学生自身が選定しています。作品説明文は、レーザー加工機を使用して、アクリル彫刻で表現しました。広報に使用するポスターは、全員で撮影した写真を並べ、さらにそれを撮影した写真を背景として、展覧会のロゴを合成しました。

作品や作品説明文を破損しないように梱包して発送し、自分達の手で設営した経験は、作品との向き合い方に変化をもたらす事でしょう。



展覧会会場



イラスト作品と、アクリル製の作品説明文



ポスター



ゲーム作品 (2018年度展覧会より)

担当教員: 小林 和彦 (こばやし かずひこ)



「三浦に遊びの学校をつくる！」

*デザイン・プロジェクト 16と同時履修としています。



自作したシェルターに宿泊する

このプロジェクトは、三浦地域の魅力を多方面から体験リサーチしながら、三浦三戸の農家さんの敷地にシェルターを自作して、実際に泊まるというワークショップ形式で実施しました。将来的には、この場所に「遊びの学校」をつくることを目指しています。

自作シェルターは資材を主に近所のホームセンターで調達し、およそ一日半で製作しました。4チーム（計12名）の個性豊かなシェルターが立ち並ぶ光景は、かわいらしく、また壮観でもありました。そこで二泊するわけですが、強い風が吹き荒れ、夜中に激しい雨が降るなど、過酷な天候のもと試練のワークショップとなりました。

それに負けず、雨・風対策を施しつつサバイバルした学生には、「棲まうこと」「遊ぶこと」という「生きること」の根源に立ち返る、貴重な機会になったのではないかと思います。



ピンクのベッドから作り始めた女子3人チーム。透け透けの囲いですが大丈夫？雨が降ってもベッドの下に避難して2日間の宿泊を完遂しました。ベッドの下で着替えてメイクだってできます。



グランピングがテーマの女子3人チーム。不織布の屋根は開放感があって気持ちよい。天蓋風の蚊帳もかわいらしい。ガーランドの飾付けでテンションを上げています。雨が降っても熟睡しました。



個室シェルターを3棟並列させた男子3人チーム。三角フレームにすだれの外壁。その名も「とんがりくん」。落ち着くパーソナルスペースから外を見ると風景が三角に切り取られて、とても綺麗。



鶏小屋風シェルターをつくった男子3人チーム。掘立て柱で頑丈です。シェルター裏側と天井を防虫ネットにして開放感を演出しましたが、降雨には勝てず。翌日雨対策を施すも、またもや雨に打ち負かされて退散。

担当教員: 兼子 朋也(かね ともや)



デザイン・プロジェクト 16

「三浦に遊びの学校をつくる！」

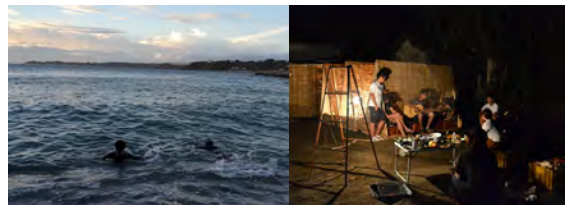
*デザイン・プロジェクト 15と同時履修としています。



最終日には交流会を開催しました

最後の晩は、遊びの学校の発案者、三上さんを囲んで、交流会を行いました。仮設シェルターの脇に、仮設のダイニングテーブルをつくり、地元食材のバーベキューを楽しみました。食後には、メンバーによるライブパフォーマンス。小さなビレッジのような、面白い空間ができていました。敷地のポテンシャルを実感することができ、今後の「遊びの学校」具体化に向けた一歩になったと思います。

これ以外にも、事前学習や、作業の合間に三浦の海辺や三崎の下町を散策したり、サイクリングを楽しんだり、海で泳いだりと、三浦地域の魅力を満喫した5日間でした。



担当教員: 日高 仁(ひだか じん)



「中長期のインターンシップ」

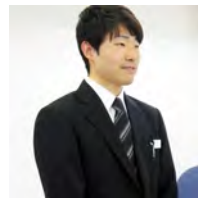
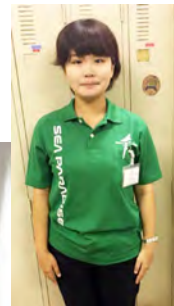
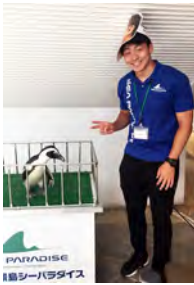
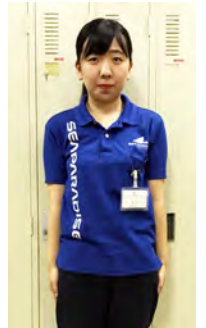
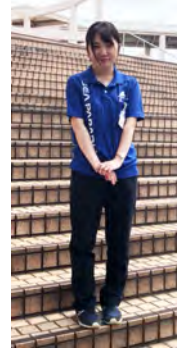
プロジェクト概要

「120時間以上のインターンシップ」
課題を設定しながら、学外の組織で、実際に社会人の一員として仕事を体験します。



株式会社 関学サービス

金沢区通所介護事業者連絡会



担当教員:新井 信一(あらいのぶかず)

「学生が受けたい授業の企画」と「開講」

プロジェクト概要

学校の授業科目はあらかじめ用意されていて、学生は選択できては創造できないのが、これまでの大学カリキュラムでした。

このプロジェクトは、学生が自分たちの受けたいと思う授業を、自分たちで企画し、実現させます。

まず、各自が関心を持っているテーマについて詳しく調べて全員の前で発表します。15回分の授業を企画しなければならないので、単に「おもしろそう」というだけでは、行き詰まります。かなり深く掘り下げて調べる必要があります。履修者全員でディスカッションを重ねて、複数の提案の中から、ひとつの授業を組み立てます。

次に、現在提供されている学部・学科のカリキュラム全体を見渡して、同じような授業が開講されていないことを確認します。また、カリキュラムの中のどの分野の授業なのかについても検討します。

実際に授業として開講するためには、講師の候補者探しと出講交渉が重要になります。まずは、自分たちが受講している科目の中で、開講したい授業に関連する科目を選び、担当の先生に相談します。その先生が引き受けてくださることもあれば、別の先生を紹介してくださることもあります。

お忙しい先生方にご迷惑にならないような時間を選び、きちんとした企画書や挨拶状を持参して出講のお願いに上がります。文書作成能力、メールや電話、対面でのコミュニケーション能力が求められます。

2018年度は、実際に3名の先生方に全5回の授業を開講していただけることになりました。

秋学期開講のコミュニケーション・プロジェクト3では、この授業の受講生を集めるために、学内で広報活動や、授業担当の先生との連絡、配布資料の準備等も行いました。授業は大変好評でした。

2019年度は、「連絡の歴史と未来」というテーマで全15回の授業を構成しましたが、講師の選定に時間がかかり、秋学期の開講は実現できませんでした。しかし、自分達で講義を企画していく中で、数多くの学びがありました。

ご招待されています

授業のお誘い

講義名：パフォーマンスと緊張

講師

伊藤賀永(本学教育学部教授)

大槻茂久(本学非常勤講師・神奈川大学女子サッカー部監督)

武野顕吾(臨床心理士、ボールパークコーポレーション)

授業概要

- ・緊張が心理に与える影響
- ・応援によるパフォーマンスの変化
- ・サッカーのルーティンがもたらす緊張緩和

日付	時間	教室	講師名
11/9 (金)	2限	(館)4-504	武野先生
11/9 (金)	4限	(館)4-504	伊藤先生
11/10 (土)	2限	(館)4-504	武野先生
11/24 (金)	4限	(館)4-504	大槻先生
11/30 (金)	2限	(館)4-504	武野先生

この授業は人間共生学部コミュニケーション

プロジェクト2で企画しました。

2018年秋学期に開講した授業の紹介チラシ。学生が作成しました。⇒



プロジェクト概要

2019年7月22日
横浜市金沢公会堂ホール
イベント「日本は多様化している」に参加

第一部

自動通訳機プレゼンテーション：外国人と日本人の「言葉の壁」
オリジナル映像2作品上映：『ジェミノス』と『ハーフ&half』
リーディング&一人芝居：『ドローン、カナリア、スマホ』

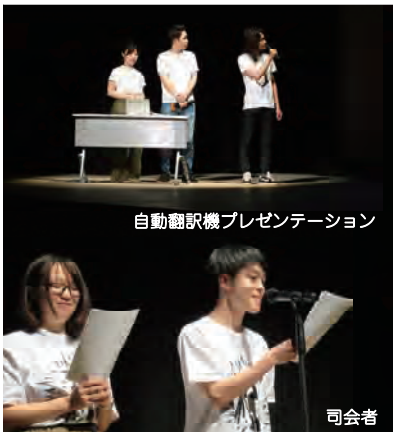
～積極的孤独のすすめ～

第二部

上映前の挨拶：ハーフも多様
映画『HAFU (ハーフ)』上映



担当教員は誰だ!?



自動翻訳機プレゼンテーション



オリジナル映像作品「ジェミノス」



上映前の挨拶



進行・運営班代表



オリジナル映像作品「ハーフ&half」



リーディング&一人芝居



第一部作品制作発表者と第一部及び第二部イベント運営・進行スタッフ26名



担当教員: 楠 勝範(くすのき かつのり)



「英語圏の大学での語学研修プログラム」(A)(B)

プロジェクト概要

英語圏の大学での4～5週間(A)、または8～10週間(B)の語学研修プログラムです。期間中は、現地の家庭にホームステイ(LU、UON)、あるいは大学の寮に滞在(SU、CCSU)します。英語の学習はもとより、海外で「生活する」ことによって、異文化世界を自分の目で見て、体で感じる学びを得ることができます。異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションを通じて生まれる相互理解の重要性を認識するとともに、母国である日本を見つめなおす好機になります。

留学先は、下記の4大学です。

- ・【LU】 リンカーン大学 (ニュージーランド)
- ・【SU】 サンウェイ大学 (マレーシア)
- ・【UON】 ニューカッスル大学* (オーストラリア)
- ・【CCSU】 セントラル・コネチカット州立大学* (アメリカ)

*コミュニケーション学科のダブル・ディグリー・プログラムの相手校です。コミュニケーション学科の学生がいずれかの大学で学び、双方の卒業要件を満たすことで、2つの大学の学位を同時に取得できます。



ニューカッスル大学 (オーストラリア)
シドニーから北170キロのニューカッスルに位置する総合大学。ホームステイをしながら自然あふれるキャンパスで学び、週末はシドニー散策で、すっかりオージー (Aussie) 気分! ホストファミリーとは会話も弾み、第二の家族ができました。絶対にまた「帰り」ます。



Study Abroad in 2019



サンウェイ大学 (マレーシア)

マレーシアを代表する私立大学。学生寮はプール付きのリゾートホテル並み! 先生もクラスメートも、皆とってもフレンドリー。でも最も宿題の多い留学先でした。



セントラル・コネチカット州立大学 (アメリカ)
創立1849年の、コネチカット州で最も古い公立大学。ニューヨークとボストンの間に位置し、クラスの遠足では魅力的な二大都市を訪問しました。



「中国文化についての調査・体験（江蘇省・江南地域）」

プロジェクト概要

社会のグローバル化に伴い、文化の多様性を知ることが求められ、異文化を理解する力を身につけるのも必要とされている。

そのため、本プロジェクト科目では、中国東南部江蘇省の江南地域（揚子江文明の一地域）を対象とし、常州大学日本語学科の学生と合同で中国の歴史や人文、社会、人間行動などの視点から、江南地域の文化について調査し体験的に学ぶことを目的とする。

関連知識の学習と研究テーマ・調査計画の策定から始め、2週間現地調査の実施、結果のまとめ・発表などを行うことによって、中国文化への理解を深めることが到達目標である。



文筆塔(常州市内・1500年前南北朝時代建造)。常州は、進士1,333名(科挙合格者)、状元(科挙の成績が全国一位の人)9名、のエリートを輩出した土地として有名、塔の頂に華やかな光が現れると、常州辺りで必ず状元が出るとの伝説も生まれたそうです。



常州大学日本語学科の学生と交流・合同学習



春秋淹城遺跡見学・調査（常州市）



中国呉文化博物館・鴻山遺跡（無錫市）



山塘街古鎮見学・調査（水郷の街－蘇州市）



惠山古鎮（無錫市・数百年から千年の歴史を持った古い町）

担当教員：施 桂栄(し けいえい)

「中国・常州大学での中国語研修」

プロジェクト概要



中国の名門・常州大学で、中国語教育の専門の先生による、少人数形式の中国語学習によって、**中国語コミュニケーション力をつけることのできるプロジェクト**です。

⇒2019年度は16名の参加がありました。

さらに、同じ世代の大学生との交流は、中国語学習意欲の向上につながり、卒業後の進路に対するイメージを明確にしていきます。

⇒帰国後に、就職に有利な資格である“中国語検定試験やHSK（漢語水平考試）”にも挑戦していきます。



書道、国画にも挑戦！



中国語コミュニケーション力アップ！



常州大学学生との交流会にて



担当教員：山田 留里子(やまだ りこ)



「中国・北京大学での中国語研修」

プロジェクト概要



中国の北京大学中文系で、中国語教育の専門の先生による、少人数形式の**中国語力**をつけるプロジェクトです。

⇒2019年度は14名の参加がありました。

以下は、参加者の感想です。

中国北京放送局への訪問北京放送局で出会った方のお話が私の中では一番印象に残っています。こんな熱心にお仕事している人の話を直接聞いて刺激になりました。普段入れない収録している所にも入れて、とても嬉しかったです。北京大学や放送局で感じた事を忘れずに感じたことを活かしていきたいなと思いました。
(高橋かれん)

このプロジェクトで多くのことを学び、経験することができた。来年には、オリンピックがあり、実際に中国語を使う場合があるかもしれない。その時に簡単なコミュニケーションが取れるように語学力を身につけたいと思う。今回得た経験、視点を今後大学生活やその先に活かしていきたいと思う。(山本慧)



担当教員:山田 留里子(やまだ るりこ)



北京大学中文系前



中国国際放送局前

プロジェクト概要

一般社団法人 神奈川県情報サービス産業サービス産業協会に所属する企業のなかで受け入れ先となる企業が2月ごろに決まる予定です。

詳細は公表時になりますが、当該企業の人事担当者による事前面接を実施する可能性があります。

1月下旬に受け入れ先となる企業からインターンシップ実施期間等の連絡が入ります。その際、メールにて連絡を入れてインターンシップ先となる企業等について調整を行っていきます。

株式会社 ソフトム

期間：

2019年6月7日～14日
(9:00～17:45)

業務内容：

- ・自己紹介ホームページ作成。
- ・開発チームに入ってシステム開発・事務作業の補助。



2019年度

3つの企業から2019年1月下旬にインターンシップ受入表を送付され、各企業から提供された資料やURLを中心に企業情報検索をしたうえで、次の3つの企業で5名の学生がインターンシップを行いました。

アナザーウェア 株式会社

期間：

2019年4月18日～25日 (9:00～18:00)

業務内容：

- ・IT業界セミナーの受講から始め、業界全体及び業界の中における各社の位置づけを理解する。
- ・RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を使用した社内業務改善をテーマとした疑似プロジェクトに従事する。
- ・検討から企画書作成までを体験する。

シンポー情報システム 株式会社

期間：

2019年8月19日～23日 (10:00～17:00)

業務内容：

- IoT技術を活用した、新しいサービスの企画に挑戦する。
- ・IoT技術とは何か。現在のさまざまな活用事例から今後の展望を学ぶ。
 - ・IoT技術を用いた新サービスの企画を行い、「企画検討」から「提案（発表）」を体験する。
 - ・チームワークの必要性和重要性を学ぶ。

「Webデザイン・CGデザイン実習」

プロジェクト概要

WebやCG・動画を用いたサイトや広告は、多くの人が目にしていると思います。本プロジェクトでは、効果的なサイトやCG・動画の作成を行うための基礎知識を身につけ、企業や地域コミュニティと連携して、Webサイトの作成や各種の発表を行いました。

まず、HTMLとCSS(カスケード・スタイル・シート)に関する知識を身につけます。これらを用いると、単にサイト等を作成することができるだけでなく、作成したものの管理がしやすくなります。企業のWebサイトの運営に関して重要なことは、見栄えが良いことだけでなく、継続的に一貫したメンテナンスが行えることです。CSSに関する知識を得ると、外見的なものを内容と分離でき、個々人に合わせたきめ細かなデザインが容易にでき、かつ容易に管理できるようになります。

さらに、動画の作成・編集やCGを用いた加工等も必要に応じて行います。これらは既存のWebサイトに埋め込むなどのほか、各種発表を効率的に行うためのプレゼンテーションツールとしても活用できます。

具体的には、横浜市金沢区と連携し、鎌倉時代以来の長い歴史を有する金沢八景地区がどのように変わってきたのかを、江戸時代の浮世絵などと合わせてCGによる3次元表現を行う企画の一環として、金沢区役所で発表をしてきました。この際には、Java3DといったCG作成ツールや、カシミール3Dといった地形をグラフィック表示するツールを使用しました。

また、実際にWebサイトの作成を請け負う事業を行っている企業と連携して、企業が作成するWebサイトの改良を手伝うといった作業も行いました。

このように、実社会で役立つ知識を身につけ、実際にそれを生かすところまでを経験してもらっています。時には地味な作業に耐えねばならない場面もありますが、そういった困難を乗り越えて何かを成し遂げたという経験は、大きな自信につながり、就職活動等でもアピール材料となります。

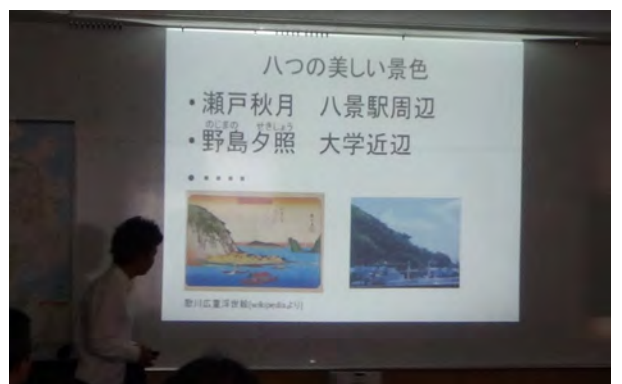


作成したWebサイトの例

料亭竹竹



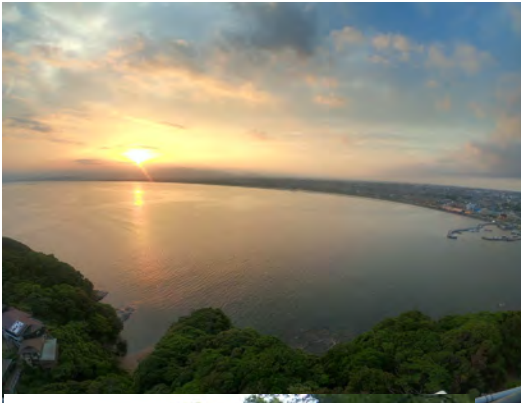
作成したWebサイトの例



区役所での発表の様子

プロジェクト概要

Self-learn how to use current digital tools and technology (smartphones, drones, GoPro's, 360° cameras, software) beyond a beginner level.



「インターネットを活用した 情報発信・広報の計画立案・実践」

プロジェクト概要

このプロジェクトでは、インターネットを活用した読み手と発信者に有効な情報発信を実践しました。メディアの特徴、文章の書き方、プライバシー保護等について学んだ後、実際に自分たちでSNSを活用して、それらの特徴を活かした情報発信を行いました。

学科広報グループでは、コミュニケーション学科についての情報発信を行いました。Twitterでは学科の一日、金沢八景駅から大学キャンパスまでの道のり、先生へのインタビューといった連続コンテンツを中心に発信、Instagramでは写真に加えてさまざまなハッシュタグを工夫しての発信、情報の拡散を試みました。

NPOグループでは、一般財団法人アカデミーキャンプと連携し、8月に子どもたちを迎えて開催するアカデミーキャンプに参加。その活動は、参加者の許諾を得た上でソーシャルメディアでも発信されています。

学科広報グループ



Instagramによる発信
写真を中心に、ハッシュタグを工夫して情報の拡散を意識

NPOグループ



アカデミーキャンプ参加の様子



Twitterによる発信
学科の一日や駅からの道順など、連続投稿のコンテンツを作成し投稿

担当教員: 折田 明子(おりた あきこ)

「働く人の意識や行動についての調査プロジェクト」

プロジェクト概要

インタビュー等のフィールドワークを通じて、質的調査の全過程を体験的に学ぶことが目的のプロジェクトです。身近なビジネス活動について心理学の観点から調査します。具体的には、接客の様子を観察したり、ホテルで働く人々にインタビューしたりすることを通して、勤労者の意識や行動を調査するとともに、消費者行動についても探り、考察します。



フィールドワーク先のレンブラントホテル厚木（本厚木駅から徒歩5分）

【プロジェクトの流れ】

1. 心理学研究法について学ぶ
2. 3~4名の小グループに別れ、グループごとにテーマやリサーチクエスチョンを設定する
3. 質問内容等についてディスカッションの上、決定する
4. 「レンブラントホテル厚木」にてフィールドワークを行う
5. 調査で得られた成果をまとめる
6. 研究成果を発表し、振り返りを行う



ホテルで実施している取り組みについて説明を受ける（左：ロビー、右：チャペル）



サービスマナー講座



成果発表会



インタビューの様子

担当教員：佐野 予理子（さの よりこ）

「問題発見から課題解決～知の実践～」

プロジェクト概要

このプロジェクトでは実務界における社会人として活動していくために、身につけないといけない様々なスキルがある。問題発見力、課題解決力、そして、それらを分かりやすく伝えるプレゼンテーション力、また、その内容を根拠をもって説明するために必要な分析力、これらのスキルを座学で学び、実際の現場でヒヤリングし、そこから問題を抽出する。そして、その問題から課題を見出し、解決策を提示するという一連のビジネス作業を実践する。これらの活動を通して、自分に得意なことはどのようなことか、一方で苦手とすることはどのようなことなのかを認識し、社会人として活動していくための今後の目標を見出す。

【事前学習】

- ①論理的思考について
- ②水平思考について
- ③組織行動について
- ④プレゼンテーションの方法
- ⑤GTA(グラウンデッド・セオリー・アプローチ)
- ⑥インタビューの方法

2. 水平思考と垂直思考の違い

思考法	水平思考	垂直思考
結論	結論は複数存在する	結論は基本的に一つだけ
目的	本質を捉えつつ、思考の幅を広げる	論理的に筋道を立てた上で、結論を導く
既成概念の有無	既成概念にこだわらない	既成概念に基づいている

＜まとめ＞

インタビューする際は・・・
◎「問いかける技術」が必要

POINT⇒「謙虚に問いかける」

「謙虚に問いかける」とは・・・

- ◎その人のことを理解したいという純粋な気持ちをもって関係を築いていくための流儀。
- ◎相手の警戒心を解くことができる手法。

【東京ドーム訪問～2019.6.17～】

・東京ドームの方から説明を受け、録音データから逐語録を作成



・逐語録から概念を抽出し、関係図を作成

【現状把握】



・関係図から見えてきた課題をもとに、解決案を作成

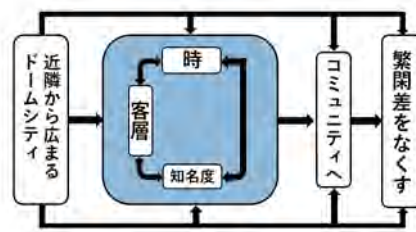


図1 6つの概念の関係図

概念①：客層	概念②：知名度
<p>客層さん：あ、もちろん、練習場で行われてきたりとか、こういう風なイベントのお客様を呼ぶような施策をやっているの、そうならないようなことはやってんですけど、その差はやっぱり大きくないですね。</p> <p>客層さん：やっぱり上は野球とかドームでコンサートがなくても、近隣目的でファミリーの方とかカップルの方とか大学生とかたくさんの方が定期的に遊びに来てくれるので、それだけでも賑やかなんですけど</p>	<p>久間さん：これはいけるからって言う感じで始めているんですけど、中々地方の方がどんどん入って来てるって感じじゃなくて、そのオンラインで伝えたいというところが、色々SNSで受けたいかというところではないし、意外とまあ完全開閉の期待のレベルに広告出した時の方が増えたりとか、それなりに実行結果しながらやっている所です。</p>

【プレゼンテーション～2019.7.22～】

～3チームに分かれて新規事業案を作成し、東京ドームの方々に向けたプレゼンテーションを行いました～

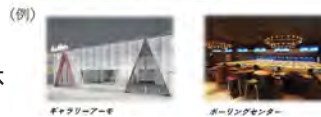
=Aチーム=

≪年配層と若者向けの広告方法と新企画の提案≫

- ◎若者向け⇒Instagramのストーリー機能や一般的な投稿
- ◎年配層向け⇒はがきDMやフリーペーパーなどの紙媒体

【施設提供+イベント】年配層Ver.

コミュニティの場を提供



若者Ver.

出会いの場を提供



=Bチーム=

≪広域顧客の波と宣伝方法の解決案≫

- ◎広域顧客の波⇒music café
- ◎宣伝方法⇒YouTuberタイアップ企画

2. 解決案①→ music café

目的：ドームらしさを追及し広域顧客を獲得する

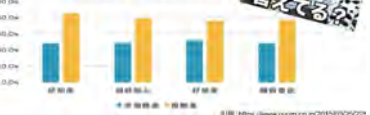
様々なアーティストとのコラボメニュー
平日限定メニューで土日の繁閑差を埋める
アミューズメントパークのチケット



3. 解決案②→YouTuberタイアップ企画

・YouTuberを活用した際の効果

匿名投稿アプリ「Rumor」とのタイアップ



=Cチーム=

≪ライブ演出×フィットネス≫

- ◎新規事業の提案→“エンタメ・フィットネス”
- ◎広告方法→インフルエンサーへの依頼

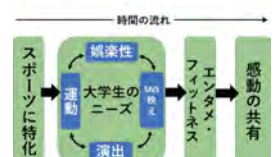
【まとめ】

想い：楽しく運動できる場所の提供

「エンタメ・フィットネス」

感動の共有

【概念の関係図】

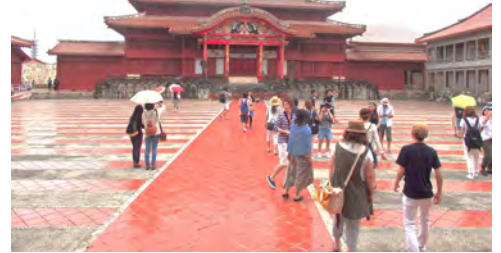


担当教員：道幸 俊也(みちゆきとしや)

「アイデンティティと文化の政治に関する フィールドワーク(in 沖縄)」

プロジェクト概要

本プロジェクトの目的は、共生の現場を理解し、経験することです。この目的を達成するために、沖縄でフィールドワークを行います。なぜ沖縄なのか？沖縄は、日本系、中華系、東南アジア系、そして戦後はアメリカ系が融合する「多文化」融合的な文化圏を構築してきました。しかし、その過程の背後には、植民地主義や戦争などの近代の重い歴史が大きく影を落としています。そのため、沖縄の人々は、常に自らの存在について問わざるをえない状況に置かれてきました。様々な文化を取り込み、共生してきた一方で、それは様々な権力的配置の中で、格闘しながらのものでもあったのです。この実習を通して、リアルな多文化共生の現場を、批判的に学ぶ機会を学生は得ることができるでしょう。



首里城



沖縄国際大学学生との交流



沖縄国際大学学生との交流 (米軍ヘリ墜落現場跡地にて)



辺野古基地のフェンス



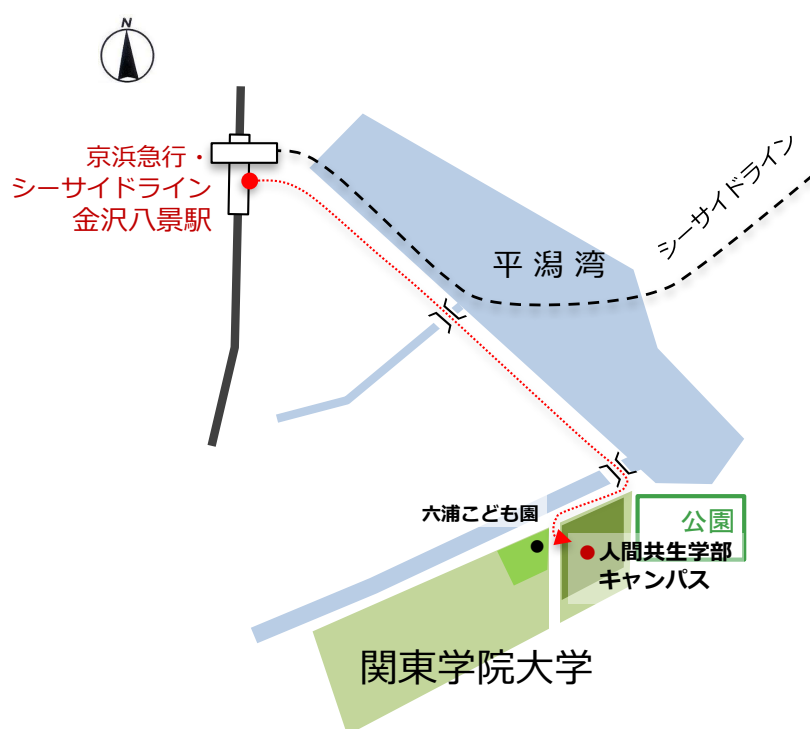
沖縄市コザでの街歩き



コザのライブハウス



関東学院大学



お問い合わせ先：

関東学院大学 学部庶務課（人間共生、教育、栄養、看護学部）

TEL：045-786-7760

住所：〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1

E-mail：ninhomu@kanto-gakuin.ac.jp

- 人間共生学部の最寄り駅は、京浜急行の金沢八景駅で、快特で横浜から約20分、品川から約40分です。
- 海の公園や八景島を通る横浜新都市交通金沢シーサイドラインも利用可能です。
- 金沢八景駅からは京急バス「八8系統 関東学院循環」で約5分（関東学院東下車）です。